



今年で30回目となる「新酒とふるさとの味まつり」が雪が舞う2月11日(日)観光交流センター内で行われ春を思わせるような淡くも甘い香りに包まれました



# 町

外からもたくさんのお客さんが来場し一年で最も賑わう町の目玉イベント。もともとは、町の観光協会が冬の高森町を盛り上げようと企画した田楽やヤマメなど郷土の味のイベントに花を添えてもらおうと山村酒造に協力依頼をし、非加熱の「れいざん」の新酒(生酒)を開発してもらったことからはじまりました。

山村酒造合名会社・企画広報部次長の山村弥平さんは、「このまつりが今まで30年続いたのは、高森の『食』があったからこそ。町民だけでなく町外からのお客さんも来場するので、良い交流の場になってくれれば」と言います。イベント初日のこの日は、1升瓶20本分の新酒の樽酒が振る舞われました。

今年は、冒険家・風間深志さんが起ち上げた、自然と人との調和に基づき活動する団体「NPO法人地球元気村」から西山琴絵さんとドミニク・シャニオンさんを招き、ライブ演奏が行われました。家庭教師のコマーシャルアルバスの少女ハイジ」の歌を担当している西山さん。その伸びやかな歌声とシャニオンさんの小気味よいキーボードが会場内に響びきました。



「次は田楽たべます！」織田さん(左)と本元さん(右)

ふ菜やき、田楽、地鶏の炭火焼き、あか牛、ヤマメの塩焼きなど高森の代表格の食が並び、来場客は新酒を片手に楽しんでいました。

旅行途中で立ち寄ったという大阪府堺市の織田祥宏さんと本元泰穂さんは、「昨日、南阿蘇に宿泊し、今日はこれから大分県に行くところ。偶然このイベントを知りました。食べ物もお酒も美味しくて本当にラッキーでした」とヤマメにかぶりつき、嬉しそうに話しました。

また、地球元気村が伝統文化継承事業として高森田楽づくりのワークショップを開催しました。具材は、町の在来種である里芋「つるの子芋」です。小さい手で芋を丁寧に竹串に刺していった子が、焼く時はお父さんにバトンタッチ

ち。多くの親子連れが寒空の戸外でアツアツの田楽を頼りました。

センター内でのオープニングイベントが終わると、地球元気村から南阿蘇鉄道の無料列車のプレゼント。乗客は駅に移動し、1時間程度の列車の旅を楽しみました。

## 3月11日(日) ラストイベント

### 第30回新酒とふるさとの味まつり

毎週日曜日には、高森町観光交流センターで「新酒とうまか創作料理ミニフェア」が午前11時から午後3時まで開催されます。

町外不出のれいざん新酒が飲めるのも、この日が最後。ご来場お待ちしております！



- 豪華なステージイベント
- 毎年大人気！味噌詰め放題
- あか牛丸焼き！

高森駅で南鉄イベント同時開催！  
(詳細はP.10 参照ください)

☎ 高森町観光協会 ☎0967-62-2233

